高松市＆南部三町商店街＆早稲田大学
【国際協働型】地域連携ワークショップ 2026

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光・・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型　ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- ●市長・地元住民との対話を通して、リアルな地域課題に向き合うことができます。
- ●国籍を超えた仲間との出会いと、国際チームでの協働により様々な価値観の中での議論に挑戦できます。
- ●グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」実践領域の対象プログラム（2 単位相当）です。（注意事項⑩要参照）

テーマ

観光 vs 商業、どう活かす？
～世界一のアリーナと日本一の商店街をつなぐ作戦会議～

高松市中心市街地は、大きく分けると、高松駅・高松港を中心とした「サンポート」地区と、少し南側に位置する「高松中央商店街」地区に分かれています。サンポートは、近年、“世界で最も美しいアリーナ”に選ばれた「あなぶきアリーナ香川」や駅ビル「高松オルネ」が開業するなど注目度が高く賑わいを見せています。一方で、高松中央商店街は２．７キロにも及ぶ“日本一長い”アーケードを有し、今でも地元市民を中心に賑わう高松の中心的商業地です。

サンポートでは（アリーナでのライブ・イベントや瀬戸内海への観光に訪れる）県外・海外からの観光客等が増加しており、中央商店街にも一定の波及効果が出てきていますが、サンポートと中央商店街は少し（５００メートル程度）離れており、回遊性という点で、サンポート地区の効果を完全には取り組めていません。広大な商店街の中でも、より南側に位置する南部エリアはさらに離れているため、サンポートに近い北部エリアと比べると、なおさら効果を取り込めていない状況です。サンポート地区から商店街へ、特に南部エリアまで、（県外・海外からの観光客に向けた）回遊性をもたらす施策の必要性を感じています。

高松市の魅力

高松市は、香川県のほぼ中央に位置しており、北は多島美を誇る瀬戸内海と、南は讃岐山脈を頂く、豊かな自然と、便利な都市機能が調和したコンパクトな街です。日本一小さな都道府県である香川県の県庁所在地であり、人口約４１万人の中核市です。もう一つの日本一は「高松中央商店街」です。８つの商店街で構成される総延長２．７キロのアーケード街は日本一の長さを誇ります。新旧どちらの顔も併せ持つ商店街では、ショッピングや飲食が一日中楽しめます。アーケード街なので、雨の日も濡れる心配がありません。また、高松市は瀬戸内海に面しているため、年間を通して温暖な気候で、自然災害が少ないことも特徴のひとつです。香川県は「うどん県」とも称されるように、讃岐うどんの有名店が高松市内にも多くあり、週末ともなれば、多くの観光客が列をなしている光景を目にします。このように、香川県高松市は瀬戸内の多島美や讃岐山脈の美しい山々、讃岐うどんを筆頭とした豊かな食文化、瀬戸内海に面した穏やかな気候と都市機能が調和した災害リスクの低い地域として、安心・安全に暮らせる街です。






募集概要

募集期間	2026 年 11 月 13 日（金）～12 月 2 日（水）正午 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に在学中の正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず） ※ただし、活動期間中に休学予定の学生を除く
応募条件	**原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと**
募集人数	8 名程度
応募方法	**1．事前説明会（オンライン）【応募の際には必須参加】** 日程：11/13（金）、11/19（木）、11/25（水）、12/1（火）12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、GCC オフィス Web および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 3 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（12:50～13:10）も上記日程で実施します。 **2．事前説明会参加後、以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から応募** ① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2026 春編」を検索 ③「地域連携ワークショップ 2026 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請
選考方法	書類選考：結果通知は**2026年12月22日（火）までにWasedaメール**にて通知します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、高松市内となります。 ③ **【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。** ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 現地調査自己費用負担：往復交通費（自宅⇔現地集合場所）・宿泊費・食費等 ＜交通費目安＞東京駅～高松駅 往復 35,160 円（新幹線／指定席、在来線） ＜宿泊費＞高松市内（相部屋の予定、朝食付き）1 泊 10,000 円程度*3 泊 **※但し、後日連携先および大学より地域連携ワークショップ活動助成金として補助があり、最終的には交通費、宿泊費の自己負担額は 10,000 円程度になる見込みです。** ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施する地域連携スタディツアーに参加が決定している場合も応募はできませんのでご注意ください。 ⑦ 当【国際交流型】ワークショップは通常の地域連携ワークショップと併願することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。【国際交流型】ワークショップに応募し、選考を通過した場合はその時点で他のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワークショップ実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、**公欠扱いとはなりません。** ⑩ グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」の対象プログラムです。 注 1：2027 年 3 月卒業予定で副専攻修了を目指される方は、認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。 ⑪ ワークショップでは連携先、大学がインスタグラム等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。あらかじめご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。
問合せ先	Office of the Global Citizenship Center（GCC オフィス）：rbso@list.waseda.jp ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予 定		日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	事前調査期間	1/13（水） 17:30～ 20:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者から、課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明
②	交流会 @早稲田大学		1/15（金） 17:30～ 20:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ・チーム発表
③	ブレセッション @早稲田大学		1/18（月） 17:30～ 20:00	・国際協働型 PBL プログラムについて ・グループワーク
④	オンラインヒアリング （@zoom）		1/28（木） 1/29（金）	・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
【事前調査期間】 ・地域やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・オンライン／現地ヒアリングの希望先、質問内容等を検討し、1/17（日）までに自治体へ一次提出 ・高松市長への質問項目については、1/29（金）までに自治体へ提出				
⑤	現地フィールドワーク @高松市		2/3（水） ～2/6（土） 【３泊４日】	・高松市内の該当施設などを訪問 ・事前に希望した方々等へのヒアリングを実施 ・高松市長懇談は 2/5（金）を予定
⑥	対面グループワーク @早稲田大学	追加調査期間	2/12（金） 10:00～ 17:00	※左記のうち 10:00～12:00 はコアタイム ※そのほかの時間帯は参加学生間での調整となります
⑦	中間報告会 @早稲田大学		2/22（月） 14:00～ 17:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑧	対面グループワーク @早稲田大学		3/2（火） 10:00～ 17:00	※左記のうち 10:00～12:00 はコアタイム ※そのほかの時間帯は参加学生間での調整となります
⑨	プレ報告会 @早稲田大学		3/5（金） 14:00～ 17:00	・最終報告会に向け発表練習等 ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
【追加調査期間】 ・現地フィールドワークや中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえ、提案の再検証およびブラッシュアップ				
⑩	最終報告会 @早稲田大学		3/16（火） 14:00～ 17:30	・首長や自治体関係者や地域住民の方々（@ハイブリッド）に向けて提案を発表（約 2.5 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施します。

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整をし、自主的に活動（ミーティング・グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
  ↓
- 事前調査：
  個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
  課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
  どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
  ↓
- 現地調査・ヒアリング：
  自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
  ↓
- 最終提案資料作成：
  現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
  ↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

●「学生だけじゃ何も変えられない」から**「学生だから変えられる」という経験**ができました。（社会科学部 1 年）

●**インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかる**ことがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）

●新たなことに挑戦しようという勇気をもってワークショップに応募し、徐々にできることが増え、仲間からの信頼を獲得することができた。（中略）**ワークショップへの参加をきっかけに、自分の可能性が大きく広がったことを実感した**。（法学部 2 年）

チームメンバーとの関わりを通して

●ワークショップで学んだことは本当にたくさんあるが、その中でも**特にチームワークの大切さを再確認**した。皆それぞれに強みがあり、チームに貢献していて、自分には何ができ、どのように貢献できるだろうかと考えさせられた。（中略）自分の長所を見つけるのが苦手だったが、**ワークショップを通して自分と向き合うことができ、長所にも気づくことができた**。（先進理工学部 2 年）

●自分の長所や短所を発見することができたし、**意見を出すことの躊躇いがなくなりました**。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）

●あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して**相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さ**を学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

●自分が住む地域をよりよくするために、**行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的**でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）

●ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、**その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にある**と強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）